兵庫県病院協会

会　報

● 発行 ●
兵庫県病院協会
〒651-0086
神戸市中央区磯上通
6丁目1番11号
兵庫県医師会館7F
TEL (078) 251−3030
FAX (078) 251−3011
会報編集委員会
印刷　株式会社　七旺社

目　次

― 巻頭言 ―

「北はりま絆ネット」と診療情報ネットワーク化について
兵庫県病院協会副会長　西脇市立西脇病院・病院長　大洞　慶郎 …… 3

― 随　筆 ―

神戸大学のミッション
兵庫県病院協会常任理事　神戸大学医学部附属病院・病院長　杉村　和朗 …… 4

地域における医療と介護の連携
兵庫県病院協会理事　医療法人旭会園田病院・病院長　橋本　創 …… 5

＝ 会員病院紹介 ＝

医療法人社団衿正会　生駒病院・病院長　佐藤　友信 …… 6
公立豊岡病院組合立　朝来和田山医療センター・病院長　恒成　徹 …… 9

＝ 事務局短信 ＝

兵庫県病院協会役員名簿　第33期（平成25年６月～平成27年６月） …… 12

＝ 編集後記 ＝

兵庫県病院協会理事・会報編集委員
姫路赤十字病院・病院長　佐藤　四三 …… 14

〈表紙の写真〉

好古園（姫路市）

正式名は姫路城西御屋敷跡庭園好古園といいます。「好古園（こうこえん）」とは、江戸時代に現在の庭園入口付近に存在した藩校「好古堂」に因むもので、市制百周年を記念して、平成四年に造営された池泉回遊式の日本庭園です。姫路城の南西に位置し、城を借景に造られた庭園の面積は約一万坪です。発掘調査で確認された武家屋敷跡などの遺構を活かして造営されました。

滝や池のある「御屋敷の庭」や本格的数寄屋建築の茶室、双樹庵のある「茶の庭」など九つの庭園群で構成され、それぞれが武家屋敷の遺構どおりに築地塀等で仕切られていることを特徴とします。江戸時代をしのばせる築地塀や屋敷門・長屋門、渡り廊下で結ばれた活水軒と潮音斎のたたずまいが特別史跡地にふさわしい歴史的景観を創り出し、時代劇や大河ドラマのロケ地としても使われています。

姫路城は現在四十五年ぶりの修理事業が続いていますが、修理が完了した後は再びその美しい姿を好古園から臨むことができるでしょう。

巻頭言

「北はりま絆ネット」と診療情報ネットワーク化について

兵庫県病院協会　副会長
西脇市立西脇病院
病院長　大洞　慶郎

平成22年１月に国の地域医療再生基金25億円が北播磨医療圏に交付されることとなった。そこで基金を活用した事業の一つとして、限られた医療資源の有効活用や病々連携や病診連携の推進を図るため、患者の医療情報を有効利用する診療情報ネットワークシステム構築事業を実施することとなった。

平成22年６月、まず「遠隔診療情報ネットワークシステム整備モデル事業検討会」（メンバーは４医師会長、７公立・公的病院長）を設置した。そして長崎の「あじさいネット」、佐賀の「ピカピカリンク」や香川の「K-MIX」の視察を行なった。

「あじさいネット」は、「地域に発生する診療情報を患者さまの同意のもと、複数の医療機関で共有することによって、各施設における検査、診断、治療内容、説明内容を正確に理解し、診療に反映させる事で高品質な医療を提供し、地域医療の質の向上を目指すものです。」とあり、情報提供は21病院で197施設が参加している。

「ピカピカリンク」は、「県内の中核医療機関の診療情報とかかりつけ病院を結ぶ佐賀県診療録地域連携システム」であり、情報提供は12病院で97病・医院が参加している。

「K-MIX」は、「遠隔医療は、X線やCTなどの患者データを通信回線により伝送し、専門医の助言を受けながら診療できるシステムである。」とあり、情報提供は９病院で116医療機関が参加している。

平成23年７月に導入システムをID-Linkに決定した。このシステムは情報公開病院の電子カルテのベンダーが異なった会社であっても繋ぐことが可能であり、北播磨圏域では有用であった。

システムの愛称を「北はりま絆ネット」とし、平成23年12月からモデル運用を開始し、平成24年秋から本格的に稼動した。

現在は、患者の文書による同意のもとに情報公開病院にある患者の電子カルテの情報を、閲覧医療機関の医師がインターネットを通じて閲覧するというシステムである。しかし、情報公開病院の医師は、閲覧医療機関の患者情報を閲覧することはできない。また、公開データは服薬・注射・臨床検査・放射線画像を基本に、画像読影回答・内視鏡画像などであるが、今後は拡充を図っていく予定である。

平成25年４月時点での情報公開は４病院で、医師が勤務している介護・福祉施設などにも対象を拡大したので、閲覧医療は68施設となった。

現在は医師のみが利用可能であるが、県当局からは介護、福祉施設等の参画により急性期から回復期、在宅期までの切れ目のないシステムとして欲しいという意向がある。従って、医師以外の薬剤師、看護師、リハビリ関係の技師、介護関係の医療従事者などを含めた幅広い医療従事者に閲覧権限を開放することも検討している。

しかし、個人情報の保護、なりすましや不正なアクセスによる情報の漏えいに対する十分な対策が難しいということで、検討を要する課題は多い。

現在のところ利用者の評価は概ね良好であり、医療連携・医療の質の向上・患者の負担軽減などに有用で、より多くの医療機関の参加がより有効なシステムとなる。

この「北はりま絆ネット」は北播磨県民局が中心となり関わっていただいたことにより構築できたシステムであり、平成25年度までの補助事業であるが、継続を望んでいる。

兵庫県医師会が「兵庫県下地域医療連携ICT化にかかる原則的要件」を提言しているが、なかでも安全性と持続性の確保が最も困難な課題ではないかと思われる。

県内では尼崎市の医師会がこのようなシステム（「むこネット」）を始めたところであるが、これが県全体に拡がり、さらには日本全体に拡がれば素晴しいことである。

最近の新聞で、医師会の協力のもとにレセプト情報を利用しての全国ネットワーク作りを厚生労働省が考えているとの報道もあり、現実となれば医療も少し変化するのではないかと思う。

（「北はりま絆ネット」の情報は、当院木村充副院長から提供を受けた。）

随　筆

神戸大学のミッション

兵庫県病院協会　常任理事
神戸大学医学部附属病院
病院長　杉村　和朗

昨年度から、守殿会長のご推薦を受けて兵庫県病院協会に参加させていただきました。会員病院は207を数えること、その３分の１は公的病院が占めている事から考えて、今まで参加していなかった事を不思議に感じる次第です。大学病院に所属しておりますと、学会をはじめとする学術団体に参加する機会は多いのですが、医師会や本会のような様々な診療科の医師が集まる会にはあまり参加する機会がありません。国立大学時代のように、来る者は拒まず、去る者は追わずというようなスタンスでは、病院相互の連携を通じた地域医療の向上からは置いてきぼりになってしまいます。そのようなわけで、入会を通じて先生方との交流がより深まることを楽しみにしております。

私は西宮に生まれ、大阪の高校で学び、神戸で学生時代を過ごしました。卒業後は神戸を拠点に、高知、島根で計15年を過ごし、1999年より神戸で勤務しております。阪神間で生まれ育ったので、いわゆる神戸弁が身についてしまい、高校時代は訛っていると同級生からからかわれたものです。高知、島根と高齢化率の高い県で勤務をした際には、過疎地の悩みを肌で感じました。島根医大のあった出雲市は人口八万ですが、島根県第二の都市でした。出雲から西は島根医大と鳥取大学でカバーしていたのですが、30キロごとに２、３万の町があり、西の端の益田、萩、津和野、日原まで常勤、非常勤を派遣していました。鉄道は単線で非電化、道は国道９号線でも片側一車線で、山の中に入ると何故これが国道や県道だと言えるのだという道ばかりです。地方は人口一人当たりの税金投入が多いと非難される事が多いですが、やむを得ない事だと感じます。都会だけに人間が集中すれば投資効果は高いのでしょうが、山も、森も、海も全て日本の国土ですし、自然を生かした豊かな国になって欲しいと思います。

兵庫県は日本の縮図と言われるように、神戸をはじめとする大都会から、いわゆる過疎地まで含まれています。大学の臨床各科の教授の悩みは、昔と違って医局の命で勤務地を決められないため、不便なところには行きたがらないという事です。これは生活上のこともありますが、本人のキャリアアップに繋がらないことが原因になっています。医師の多くは患者さんを助けることに多くの喜びを見いだしています。「若い人たちが変わった」とは言いますが、受け持ち患者さんのために何日も泊まり込む、夜中でも呼び出されると出て行くことから考えても、医師としての本質は変わっていないと思います。専門的な研究、臨床能力以外の評価がともすれば低いのが現状です。これに加えて総合診療を重視した地域医療並びに教育への貢献をより重視していかなければ、医療に対する信頼が低下していくと思います。

最先端を目指すには一極集中、選択と集中が効率が良いのでしょうが、人類が発展していく上では決して最良の選択ではないと思います。地方において、医療の充実による安心な生活が得られれば、過疎地はむしろ生活しやすい地域になる可能性を持っています。神戸大学でも、柏原病院に地

域医療の拠点を設けるために、総合診療部の秋田教授が病院長として赴任しました。これと連携して、大学には来年四月に兵庫県と連携して、地域医療活性化センターを設立し、地域医療に関する教育、病院支援を開始します。医師の原点である患者さんを助けたいという意欲を生かし、地方でも医師を育てていける体制を整備し、病院協会の先生方と協力して、兵庫県を日本の医療のモデルにしていきたいと願っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

地域における医療と介護の連携

兵庫県病院協会　理事
医療法人旭会　園田病院
病院長　橋本　創

少子高齢化と人口減少が待ったなしの状況である。日本の人口は2010年の１億2800万人をピークに減り続け2045年には１億人を割り込むと予想されている。また75歳以上のいわゆる後期高齢者人口の割合は現在の11%から2030年には約20%と倍増する。これはきわめて重大なことで日本の国力が減衰し他国からの軍事的あるいは経済的な侵略を受けても抵抗できないという恐るべき事態も想定される。医療や年金といった社会保障制度がほころび始めているが目先の損得にとらわれることなく先を見据えた医療、介護のシステムを再構築していく時期にきている。超高齢化社会における医療と介護においては複数疾患の罹患、治療後の要介護状態の変化、特に認知症の顕在化や増悪など高齢者に特有な病態や状態に対応していくシステムが必要である。医療と介護の接点は在宅であると考える。患者や家族は在宅療養中に病状が悪化した場合の対応について絶えず不安を抱いている。いまこそ患者の状態に合わせて医療サービスと介護サービスを同時に提供できる仕組みが求められる。

国が進めている「地域包括ケア」とは日常生活圏域において①医療との連携強化②介護サービスの充実③予防の推進④生活支援サービスの確保と権利擁護⑤高齢者住まいの整備といった５つの視点での取り組みが包括的かつ継続的に提供されるシステムである。昨年の介護報酬改定においては「24時間地域巡回型訪問サービス」「サービス付き高齢者住宅」「小規模多機能居宅介護」といった在宅系介護サービスが創設されたがそれぞれに医療が密接に関与している。すなわち地域包括ケアの中で医療に求められている役割は在宅医療の提供において他はないと考える。

医療提供側も診療所を中心に在宅医療の充実に取り組んできている。単独の診療所だけでは対応が困難な場合は複数の診療所と連携するケースが増えてきている。さらに22年の診療報酬改定で要件が緩和された在宅療養支援病院においても在宅医療への拡がりがみられる。在宅医療のすそ野は確実に拡がっている。しかし単独で診療を行っている診療所の医師にとって24時間の対応ということは高いハードルである。診療所間の連携あるいはバックベッドを提供する病院との連携を診療報酬で担保することが必要である。

在宅医療の供給量が増加したとしても現在のシステムのままでは診療所間あるいは診療所と病院といった線としての医療連携しか生まれず地域全体の連携に発展する可能性は低いだろう。なぜなら多くの医師にとって介護サービスに対する関心は決して高くなく介護サービス事業所との連携の意識は希薄である。そうはいっても各地において医療従事者と介護従事者との連携を模索する動きはみられている。地域医療に介護サービスを組み込んでいくためには連携の中心となるいわゆるハブ機能を持つ主体が必要であり医師会がその役を担うべきであろう。そして地域における医療・介護連携のかなめとなるのはかかりつけ医とケアマネージャーであり両者の橋渡しをするのが訪問看護師であると考える。

会員病院紹介

医療法人社団衿正会

生駒病院

病院長　**佐藤　友信**

◆地域の状況

当院のある猪名川町は阪神間の東北端に位置し、南北に非常に長く18km、東西に８kmあります。東は大阪府豊能郡、西は宝塚市と三田市、南は川西市に隣接しています(地図参照)。阪神間最高峰753mの大野山とプラネタリウム、東大寺の大仏鋳造のために銅を献じたといわれ豊臣秀吉の時代に最も栄えた銀や銅の産地の多田銀銅山があり、農産物として椎茸や寒天（特産)、野菜などを産出し近畿の食糧供給源で、町村別日本一の図書貸出冊数など　豊かな自然や文化歴史に育まれ、都心近郊にも程近い人口約３万２千人の町であります。

当院は、昭和48年に生駒診療所として出発し、昭和54年に病院開設、「献身・博愛・奉仕」の理念を掲げて40年に亘り、地域の皆様の健康を守るという使命を帯びながら慢性期の病院として発展してまいりました。

◆病院の特徴

県下で男女第１位（2005年国勢調査）の長寿の町猪名川町にあって、高齢社会に資するものとして長期医療・介護療養病床296床を擁する他、診療所、居宅介護支援事業所など在宅支援にも力を入れています。療養・介護の病院で従来殆どが看取りでありましたが、この１～２年心不全、呼吸障害、脳梗塞、脳出血后など、急性期を終えたばかり、あるいはその治療途上ではないかと考えられる紹介入院が急速に増えました。しかも基礎疾患に糖尿病、肝、腎の疾患をかかえる方が多数を占める時代です。入退院が気ぜわしくなり、元気になって自宅や施設等への退院が４割程度になっています。

一方療養・介護病棟は収入源としての入院料は決まっており薬剤費などは病院負担、医学的な様々な検査･処置を施行しても殆どが算定できず、治療のやり甲斐とは裏腹に経営上は重しになってきつつあります。

猪名川町は人口３万２千人を擁しながら、一般病棟は皆無の状況であり、今後も高齢者が増加していくことを考えると地域で支える一貫した医療の提供が必要と思われます。

診療所として出発し、病院開設へと発展してきた生駒病院の将来像と当地で育った生駒理事長の、猪名川町に地域医療を通して貢献したいという強い思いもありひと病棟を一般病棟に転換する可能性を検討いたしました。

◆一般病棟の導入

先述しましたように経営上の点からも今年末か来年春に１病棟分46床を一般病床とすることが今後の病院発展のために良かれと決定され、現在準備を進めております。

勿論病院本来の療養型病院を維持しつつsubacute,postacuteとしての機能を一層充実させながら運営していく所存です。

一般病棟転換を可能と結論したのは若手・壮年医師の加入と従前からのベテラン医師との協調があり、人員的に救急当番病院は無理としてもsubacute,postacuteは充分担えるとこの一年で実感できたことです。

医師は内科の循環器、消化器、総合、元外科医で常勤態勢を組み、他、泌尿器、形成外科、皮膚科、精神科、整形外科の非常勤医が加わっております。

様々の病態を持つ高齢者の患者様にも最適の医療・療養・介護ができるよう取り組めると自負いたしております。

医療福祉連携部も次第に活性化してきており、従来通り猪名川町・川西市北部を中心に北摂地域の大阪府能勢町・豊能町の先生方・諸施設とも連携を充実していきたいと考えております。

他、当院の充実した部門について簡単にふれます。

・リハビリテーション部

主に亜急性期から慢性期の高齢者の方に対して、PT・OTの計10名と介護福祉士・リハビリクラークを加えた合計13名により、患者様の精神面・身体面を考慮したリハビリを個別に提供しております。

数年前までは長期療養を目的とした維持訓練が中心でしたが、回復期リハ専門病院が急速に整備されていく中で、早期在宅復帰を妨げている阻害因子（慢性呼吸・循環器系障害、高齢、変形性骨関節疾患、認知症、社会的背景など）を有する患者では一般的な回復期間を超えてでもリハ介入が必要で、緩やかに生き生きしてくる患者も多く経験します。特に合併症の多い高齢者では、一回の介入時間や回数などの提供量が制限され、一寸したアクシデントで機能後退（廃用）する場合も多く、こうした問題を観察し最良なリハビリが実施できるよう、豊かな人生となるよう支援していきたいと、取り組んでおります。

・栄養部

栄養部では「安全でおいしい食事の提供」を基本理念に管理栄養士・栄養士・調理師が日々の業務に取り組んでいます。老人･病弱者が多く咀嚼･嚥下機能の低下が認められるので各病棟に担当管理栄養士を配し、栄養状態改善に取り組んでいます。見た目に食欲を促すような献立を作成し、当院の特色であります『バイキング給食』を実施し、自前の栄養改善に取り組んでいます。

◆今後の目標

地域包括ケアシステムや医療システムの構築が進んでいく中にあっては、長期療養に特化した診療形態だけでなく、１次医療の拠点施設として、亜急性期、慢性期を通じ、地域全体で支える一貫した医療の一員として地域医療に貢献したいと思います。

病院の理念

「献身・博愛・奉仕」を基本理念に据え、地域の皆様の健康と安全を守ることを使命としています。

運営方針

心のこもった質の高い医療、地域の皆様に望まれる医療を提供し、全職員一丸となり、身体的、精神的サポートに努めます。

常に万全の態勢を整えて対応し、地域に貢献する病院をめざします。

病院の概要

名　　称：医療法人社団衿正会　生駒病院
所 在 地：〒666－0252
　　川辺郡猪名川町広根九十九８番地
電　　話：072－766－0172
F A X：072－766－7156
U R L：http://www.ikoma-hp.com
病 床 数：慢性期病床296床
　　（医療病床200床、介護病床96床）
理 事 長：生駒　正史
院　　長：佐藤　友信
診療科目：内科、消化器内科、循環器内科、放射線科、リハビリテーション科

16 列マルチスライス CT

病院開設 40 周年記念の花壇

〔プロジェクトチームがデザイン＆制作を担当。
職員の植樹により思いのこもった花壇が完成しました。〕

公立豊岡病院組合立

朝来和田山医療センター

病院長　**恒成　徹**

◆はじめに

公立豊岡病院組合立朝来和田山医療センター（以下：当医療センター）は兵庫県北部の但馬地方にある人口約３万３千人の朝来市に属しており、“日本のマチュピチュ”と称される竹田城跡の麓に位置しております。

当医療センターは、1967年（昭和42年）７月に北兵庫整形外科センターとして開設し、その翌年には天皇・皇后両陛下がお見えになる等、整形外科の分野において日本でも有数の医療施設でありました。

その後、内科病棟や療養病棟の整備を行い、現在は一般病床103床、療養病床36床の139床規模で朝来市域の中核病院として運営しております。

当医療センターは、病気の予防に始まり、急性期から慢性期医療・リハビリ・在宅・看取りまで、全てに関わることにより、心のかよう温かさを感じてもらえる医療の実践に取り組んでおり、地域に密着した医療の提供を目標としています。

◆基本理念

地域住民の視点に立った信頼される病院

◆基本方針

・者様の権利を尊重し、心のこもった医療を提供します。
・患者様に安心・安全で、質の高い医療を提供します。
・地域との連携を深め、地域住民のニーズに応じた医療を提供します。

◆主な沿革

昭和42年 ７月　『北兵庫整形外科センター』として開設（110床）
昭和43年 10月　天皇・皇后両陛下行幸
昭和56年 ３月　内科病棟新設（50床）
昭和56年 ４月　『北兵庫内科整形外科センター』に改称
平成元年 ４月　『公立和田山病院』に改称
平成３年 ３月　救急告示病院指定
平成８年 ４月　稼働病床規模縮小（160床→104床）
平成14年 ６月　療養病棟開設　許可病床・病床種別変更（一般103床、療養36床）
平成19年 10月　『公立朝来和田山医療センター』に改称

◆現在の状況

当医療センターは朝来市における福祉ゾーンに存在し、周辺には兵庫県立和田山特別支援学校、立雲の郷、真生園（障害者支援施設）、平生園（特別養護老人ホーム）、わらしべ（高齢者グループホーム）、さくらの苑（老人デイサービスセンター）等が存在しており、医療・介護・福祉等の連携を実践しております。

当医療センターは昭和42年に整形外科センターとして開設以来、昭和56年には内科病棟を整備、平成元年に外科、平成８年に脳神経外科等、診療科の拡大を図り、今から10年前となる平成15年度には11名の医師が在籍しておりました。

しかし、今年度（平成25年度）の常勤医師数は内科医２名と整形外科医２名の４名体制となっており、非常に深刻な医師不足の状況にありますが、系列病院である豊岡病院をはじめ、神戸大学等から応援をいただき朝来市域における医療の確保・

維持に努めております。

少ない医師数で、いかにして患者のニーズに応えていくのかということを常に考え、スタッフ一同協力して取り組んでおります。また、患者にとって最善の医療を提供するためにはどうすればよいのかということを念頭に治療方針を決定する等、常に“患者の視点に立った医療の実践”を心がけています。

◆標榜診療科

内科・整形外科・消化器内科・循環器内科・外科・皮膚科・泌尿器科・リハビリテーション科・放射線科

◆診療科の特徴

・内科について

２名の医師が内科一般を扱って診察を行っています。専門的な検査や治療が必要な方については適宜、公立豊岡病院などの地域基幹病院へ紹介しています。

・整形外科について

２名の医師で年間400件を超える手術を実施しておりますが、装具療法や理学療法の選択・指導といった保存的療法も行う等、患者のQOLを第一に考えた治療を行っています。また、慢性関節リウマチに対しては免疫抑制剤の使用も含めた薬物治療をはじめ、人工関節置換術や自己骨を利用した関節形成手術なども行っています。

・その他の診療科について

外科、消化器科、循環器科、泌尿器科、皮膚科については出張診療応援により対応しています。

新病院の整備計画について

当医療センターは公立豊岡病院組合という一部事務組合に属しております。

公立豊岡病院組合は、豊岡病院をはじめ、日高医療センター、出石医療センター、梁瀬医療センター、和田山医療センターと５つの病院を運営しています。このうち、和田山、梁瀬の両医療センターは直線距離で約7.5㎞、車で約10分の場所に存在しており、同一診療圏域に組合内病院が存在している状況にあります。また、両医療センターともに深刻な医師不足の状況にあるため、それらの問題を解消すべく、梁瀬・和田山の両医療センターを統合したうえで移転新築することとなりました。

組合内病院とは言え、異なる二つの病院の統合ということで様々な問題を抱えておりますが、新病院の実現に向けて職員一同努力していく所存であります。

なお、新病院の概要と開院までのスケジュールは下記のとおりです。

新病院の概要

基本理念

・地域住民が安心して暮らすことができるように、疾病の早期発見、早期治療を目的とした、住民を支える地域密着型の医療に努め、地域住民に信頼される医療を提供する。

基本方針（運営方針）

・安心・安全な医療を提供するとともに、福祉との連携や住民の健康づくりに協力し、地域住民から信頼される病院を構築する。
・患者の権利を尊重するとともに、十分な説明に基づいた医療を提供する。
・心のこもった、きめの細かい医療を提供し、安らぎを得られるような療養環境を提供する。
・但馬地区の医療機関や福祉施設との連携を深め、切れ目のない医療を提供することで、地域住民が安心できる環境を構築する。

病床規模（予定）

〔開院時〕一般病床：114床、療養病床：36床、合計150床

※将来的に一般病床138床、療養病床42床、合計180床まで増床予定

診療科目（予定）

・入院：内科、外科、整形外科
・外来：内科、消化器内科、循環器内科、外科、
　　整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科

今後のスケジュール

平成25年度　基本設計
平成26年度　実施設計
　　建築工事着手
平成28年２月　工事完成
　　リハーサル等
　　５月　開院（予定）

「日本のマチュピチュ」と称される天空の城
竹田城跡

訃　報

当協会前副会長であり医療法人社団康人会会長の公文　康先生におかれましては、平成 25 年 9 月 17 日にご逝去されました。（享年 79 歳）
ここに謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。

＝事務局短信＝

兵庫県病院協会役員名簿　第33期（平成25年６月～平成27年６月）

役職名	氏　名	所在地・所属・職名	電　話	ＦＡＸ
会　　長	守殿　貞夫	〒651－0073　神戸市中央区脇浜海岸通1丁目３－1 神戸赤十字病院顧問	078（231）6006	078（241）7053
副 会 長	大洞　慶郎	〒677－0043　西脇市下戸田652－1 西脇市立西脇病院長	0795（22）0111	0795（23）0699
〃	藤原　久義	〒660－0828　尼崎市東大物町１丁目１－1 兵庫県立尼崎病院長兼塚口病院長	06（6482）1521	06（6482）7430
〃	大村　武久	〒663－8211 西宮市今津山中町11－1 医療法人社団甲友会　西宮協立脳神経外科病院理事長	0798（33）2211	0798（33）2438
常任理事	松浦　梅春	〒671－0234　姫路市御国野町国分寺143 医療法人松浦会　姫路第一病院理事長・名誉院長	079（252）0581	079（253）1995
〃	吉田　耕造	〒652－0803　神戸市兵庫区大開通９丁目２－6 医療法人榮昌会　吉田病院理事長	078（576）2773	078（577）2792
〃	西　　昂	〒657－0037 神戸市灘区備後町３丁目２－18 医療法人康雄会 西病院理事長	078（821）4151	078（821）4111
〃	吉田　靜雄	〒661－0976　尼崎市潮江１丁目12－1 医療法人中央会　尼崎中央病院理事長	06（6499）3045	06（6497）3196
〃	石原　享介	〒653－0013　神戸市長田区一番町２丁目４ 地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター西市民病院長	078（576）5251	078（576）5358
〃	杉村　和朗	〒650－0017　神戸市中央区楠町７丁目５－2 国立大学法人神戸大学　神戸大学医学部附属病院長	078（382）5111	078（382）5050
〃	太城力　良	〒663－8501　西宮市武庫川町１－1 学校法人兵庫医科大学　兵庫医科大学病院長	0798（45）6111	0798（45）6608
理　　事	北　　徹	〒650－0047　神戸市中央区港島南町２丁目１－1 地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院長	078（302）4321	078（302）7537
〃	市原紀久雄	〒652－0042　神戸市兵庫区東山町３丁目３－1 医療法人　川崎病院理事長	078（511）3131	078（511）3138
〃	大友　敏行	〒651－1145　神戸市北区惣山町２丁目１－1 ㈳全国社会保険協会連合会 社会保険神戸中央病院長	078（594）2211	078（594）2244
〃	長嶋　達也	〒654－0081　神戸市須磨区高倉台１丁目１－1 兵庫県立こども病院長	078（732）6961	078（735）0910
〃	深谷　　隆	〒651－2273　神戸市西区糀台５丁目７－1 (一財) 神戸市地域医療振興財団　西神戸医療センター院長	078（997）2200	078（997）2220
〃	島津　　敬	〒655－0004　神戸市垂水区学が丘 １丁目21－1 (一社) 日本海員掖済会　神戸掖済会病院長	078（781）7811	078（781）1511
〃	井口　哲弘	〒651－2181　神戸市西区曙町1070 兵庫県立リハビリテーション中央病院長	078（927）2727	078（925）9203

役職名	氏　名	所在地・所属・職名	電　話	ＦＡＸ
〃	橋本　　創	〒661－0953　尼崎市東園田町 ２丁目48－7 医療法人旭会　園田病院長	06（6491）9521	06（6494）0199
〃	小関　萬里	〒659－8502　芦屋市朝日ヶ丘町39－1 市立芦屋病院長	0797（31）2156	0797（22）8822
〃	澤井　繁明	〒674－0063　明石市大久保町八木743－33 医療法人社団　明石医療センター理事長	078（936）1101	078（936）7456
〃	藤原　卓夫	〒674－0852　明石市朝霧台1120－2 医療法人社団吉徳会　あさぎり病院理事長	078（912）7575	078（913）6763
〃	宇髙　　功	〒675－0232 加古川市米田町平津 384－1 地方独立行政法人　加古川市民病院機構理事長	079（432）3531	079（432）3672
〃	石川　　誠	〒671－0221 姫路市別所町別所 ２丁目150 医療法人仁寿会　石川病院理事長	079（252）5235	079（253）8116
〃	佐藤　四三	〒670－8540　姫路市下手野１丁目12－1 姫路赤十字病院長	079（294）2251	079（296）4050
〃	井上　喜通	〒679－4121　たつの市龍野町島田667 医療法人社団緑風会 龍野中央病院理事長・院長	0791（62）1301	0791（62）4530
〃	小野　成樹	〒678－0232　赤穂市中広1090 赤穂市民病院長	0791（43）3222	0791（43）0351
〃	宮野　陽介	〒667－8555　養父市八鹿町八鹿1878－1 公立八鹿病院長	079（662）5555	079（662）3134
〃	秋田　穂束	〒669－3395　丹波市柏原町柏原5208－1 兵庫県立柏原病院長	0795（72）0524	0795（72）1276
〃	加堂　哲治	〒656－0021　洲本市塩屋１丁目１－137 兵庫県立淡路医療センター院長	0799（22）1200	0799（24）5704
監　　事	森村　安史	〒673－1132　三木市大村字北山200 医療法人樹光会　大村病院理事長	0794（82）1132	0794（83）5739
〃	曲渕　達雄	〒668－8501　豊岡市戸牧1094 公立豊岡病院組合立　豊岡病院長	0796（22）6111	0796（22）0088
顧　　問	阿倍　光幸	兵庫県立粒子線医療センター 名誉顧問 （自）〒606－8311　京都市左京区吉田 神楽岡町６－３	0791（58）0100	075（761）3864 （自宅）
〃	安田　俊吉	〒651－2215　神戸市西区北山台３丁目１－１ 医療法人博愛会　広野高原病院理事長	078（994）1155	078（994）3811
〃	中村　　肇	〒664－0015　伊丹市昆陽池２丁目10 阪神北広域救急医療財団理事長	072（770）9901	072（770）9915

編集後記

2020年夏季五輪・パラリンピック東京開催が決定いたしました。経済への波及効果、東日本復興のカギ、など様々な論説がなされていますが、私たちの心をわくわくさせてくれる明るいニュースであり、日本人として素直に喜びたいと思います。

さて会報秋季号の原稿を読ませていただきました。今回大洞副会長が巻頭言で、診療情報ネットワークシステム「北はりま絆ネット」の立ち上げから稼働に至るまでの経緯を書いてくださいました。病診連携の推進のため、患者の医療情報を有効利用するため、このようなシステムは今後ますます発展させるべき分野と思います。運用を拡大するとともに課題が明らかとなり、兵庫県全体に拡がれば素晴らしいと思います。

杉村常任理事は、兵庫県の地域特性を考察され、総合診療を重視した地域医療並びに教育への貢献に関して、神戸大学としての戦略を述べていただきました。過疎地医療の問題、医師の偏在化が顕著になっている中で、重要な解決策として期待します。橋本理事は、超高齢化社会における医療と介護の接点は在宅であり、医療に求められる役割は在宅医療の提供であるとわたしたちに教えられています。今後連携の中心として医師会が役を担い、医療従事者・介護従事者・ケアマネージャー・訪問看護師等の関わり方の重要性を説かれています。

生駒病院の生駒理事長と朝来和田山医療センターの恒成院長からそれぞれの病院の特徴、取り組みについて興味深い紹介が寄せられています。一読お願いいたします。

無事原稿が集まり出版するにあたり、各執筆者の方々のご協力、また編集の労を取られた事務局の方々にこころより感謝いたします。

兵庫県病院協会理事・会報編集委員
佐藤　四三
（姫路赤十字病院　病院長）記